

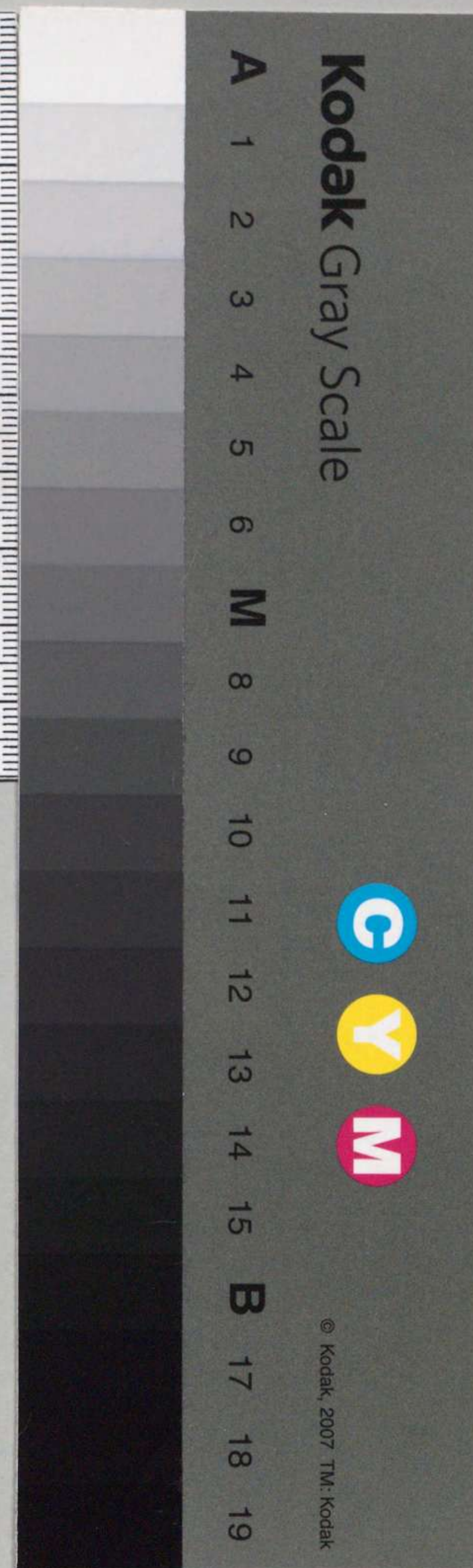
駿河國郡名國造

書圖省務内
號七六八〇一第
類理地部書和
函
冊

和書門
二九〇四二號
一冊

庫文閣内
七三函
六架

内閣文庫
番號和 29042
冊數 1 (1)
函號 173 79



内記



駿河國郡名考



三階屋仁翁門道雄撰

駿河郡



古書、珠流河又蘇河薦河と言ふ風土記有る
仙河尖河を外を見ゆる事なり 和名抄にも
割河今の瀬乃如くスルかと瀬家の瀬と云ふ
右書家文字よりてスルかといふ也と云城が
いふ瀬河もいふ瀬もいふ瀬もいふ瀬も
事と皆らあることあること思ふなり

のかこ^{シカ}といひ城者の通ふまゝなづから
な^カといふまへ一言の意を滑所^カといふまを
ん^{シカ}の略及^カをまゝスルカとも云新^カか
い^カ所^カ在所^カ隠所^カもやの如し其^カといふ
同^カの及^カと和名^カ杵^カ體^カ和名^カ加^カ厚^カ粥^カや粥^カ和名^カ志^カ
薄^カ麻^カやとあるとて同^カ封^カと^カといふ言の例を
い^カちある一^カ此國^カ為^カ今の駿東^カ郡の内^カスル^カカ
今^カといひ一^カお^カい^カと我^カより起^カま^カる事^カと思
はる其^カの^カといひ一^カお^カい^カとも今^カ知^カる

それとて一^カ考^カる今^カい^カの^カといふ
一^カ今^カの^カ東^カ郡^カといふ^カの^カ村^カといふ^カ中^カに
一^カい^カの^カ東^カの^カといふ^カ今^カの^カ東^カ郡^カといふ^カ
足^カ入^カる^カ苗^カ種^カも^カ福^カ井^カも^カと^カ和^カ名^カといふ^カ
又^カ滑^カ所^カといふ^カ機^カの^カ如^カ物^カといふ^カと^カ東^カ郡^カといふ^カ
は^カ滑^カ所^カといふ^カ滑^カ所^カといふ^カ名^カは^カ滑^カ所^カといふ^カ
一^カ今^カの^カ東^カ郡^カといふ^カ滑^カ所^カといふ^カ名^カは^カ滑^カ所^カといふ^カ
また^カい^カひ^カ友^カ人^カといふ^カと^カ滑^カ所^カといふ^カ
い^カる^カと^カ滑^カ所^カといふ^カと^カ滑^カ所^カといふ^カ

仕わたり時世建沼河別命を東方十二道將軍
として下り給ひて是は國より始る時世地
又其後給ひん然くても世所の名を國に
よみ其子孫の氏をいさる事なりは安倍氏
名の古き事百葉に安倍の名を焼津とて今も
多敷とて今も所のいありともその明く又
又世命の子孫なる由に事々安倍氏の者
なり其族の氏世國の地名甚く多し久努朝臣
長田朝臣^{續記} 姓氏錄阿倍志斐連池田廣瀨朝

臣も皆地を今も存してとて又安倍氏の世國
にありし事を類聚國史二十九卷孝德天皇天仁三
年阿倍大臣菟薙河國益津郡飽波山といふ
事あり世大に補せし阿倍内膳といふを
し世人の大に成りしはともや朝廷は保つて
國に居りありし事なりは建沼河の命を
將軍とて世の人もき給ひありてとも子孫は
も衆なりし世なりしは事々郡の名にありし
は事々いふ事々安倍の名といひしは姓氏錄

と到り阿倍盧原國復命之曰以盧原國給
之とあるよりと思ふも盧原を安倍の中の名
ありし如しこの建沼河余の東方よりある
しを景行天皇の時代吉備彦命の東國よ
り下りてひもてを二百年程も経ちて
たやと安倍の地名をいへりや又安倍の
語意は安んずる意なりや倍は濁音なりと
万葉の東歌可豆思加和世乎爾倍須登毛と
あるふ倍を新郷と云ふ事通なりや古説に

如く安んずる倍も通いし事と云ふ物類
食ふ事やい余の子孫のち同流膳臣膳
大伴部なりといふ姓ありてい子孫世々天皇の大饗
は奉る家や姓氏録にも言紀にも其故事見え
ありとあるを阿倍氏の祖武渟河別と膳に
祖盤鹿六雁命と親も一族なりと云ふ食
事といふよりい安倍の姓は原と云ふ者
安倍をいふ名とて民部省圖帳阿兵布といふ名
ありし代中いふより二つありて東の方城安東とい

西と安南といふ二方あるをさへも大なる
いふ所の大なるをその名も及びしを
又其昔武沼河命の子孫の記せし所の
名もその名もあむ安東安南は府の東西を中
古書にも数多ある地名あり續記天平勝寶二
年安倍朝は小嶋為駿河も延暦元年阿倍朝臣祖
足為駿河も安倍朝は男等弘仁初叙従五位任
駿河もあむ安倍氏の人世國の守りなりし中
縁河も一故あり

有渡郡

百葉集有度は依り風土記鳥渡依り和名抄延喜
式有度は依り今有渡と書は中古より同し百葉集
有度部牛磨といふ名あり其國あり風土記有度清水
有度宋女敷子陵あり有度山は中古の歌有度濱
ともいふ地名あり其有度と語意有舊字とウ
の約ありあり度所の意とて植所の義あり植
を稻苗植所といふ意也其有度の字より其
の有東村を以て所風土記の地名もよく合はれ

い池のいなりを水田とていふなり池の邊りなる
い水田の事記ひるかくて其水とていふ
万葉集の水田と書ていふとて割るて水の古言に
あま事知るい地名の郡なりあま事知る
り郡領の居りあま其證方葉の歌都武賀
野爾須受我於等伎許由可年思太能等能乃奈
可知師登我里須良思母といふ都氏賀野を
地名今傳ふ彌といふ郡之餘地大野といふ
名風土記和名抄にあまを其ありといふ事
なり

可年思太い志田とて等殿能乃奈可知師と其領
あま人の中子といふかあまをいふは地あり
人の志田といふ郡を領あま郡の名も
あま事知る

い池のいなりを水田とていふなり池の邊りなる
い水田の事記ひるかくて其水とていふ
万葉集の水田と書ていふとて割るて水の古言に
あま事知るい地名の郡なりあま事知る
り郡領の居りあま其證方葉の歌都武賀
野爾須受我於等伎許由可年思太能等能乃奈
可知師登我里須良思母といふ都氏賀野を
地名今傳ふ彌といふ郡之餘地大野といふ
名風土記和名抄にあまを其ありといふ事
なり

益頭郡

古事記焼遺一カ葉書記同焼津續記より益
頭は此事今同風土記麻賊より記よりこ
日武の言の古事ある事ハ多きも知るの事
ふかの草薙といふを混して野々の木と聞ぬ
いふ事其事或人々古事記中卷下故爾
到相武國之時其國造詐曰於此野中有
大沼住是沼中之神甚道速振神也於是
看行其神入坐其野爾其國造火著其野

故知見欺而解開其姨倭比賣命之所給
囊口而見者火打有其裏於是先以其御
刀切撥草以其火打而打出火著向火而
焼退還出皆切滅其國造等即著火焼故
於今謂焼遺也と見え書記も沼の事はか
是野也麋鹿甚多氣如朝霧足如茂林臨
而應狩といふ又悉焚其賊衆而滅之故
号其處曰焼津と見え多き事なりと見え
此はなりといふ郡の如きは多き事なりと見え

考ふもあはれ其草薙とて処古より神社なり
て其草薙^{いちぢり}物然とて延喜式の撰録の式
より考合て古の海と思ふ式も小川横
田畠津とて北小川とて今焼津の神社
ありとて横太の今の府の東の足利町と名
やひあり今の草薙の社も今の道より余所
たりや古事記より野の沼ありとて沼を
今浅畑の沼とて是沼今と大沼とてむら
村とて今長沼沼ありと村名もむら外

おもこの国とありとて今草薙の社のほろ
大道のや古事記ありと沼とては池とて
沼とてありと今其田多く村あり
又草薙のほろの山とて鹿のふとありと
上代鹿の多く住まよとて名ありとて
い海ありとて神ありとて名ありとて
大母あり國道の野とてその子薙たあり
とて古事記よりとて古事記よりとて
とて思ふとて焼津よりいれとていれ

と述給ひたりと又焼津といふとて國造と
成切なりと焼給ひ故に或は焼津といふ處
一處とて焼津城ヤツヤキツといふ國造と
記給ひといふ語ありと尊し國造とをいふ
一所といふ他の所遠くといふ所をいふより今の文字
に改めらるゝと人々も續記にも並頭郡といふ
田社寛平縁記に改めらるゝ事の中にも載り

廬原郡

舊事記國造本記廬原國造見え古事記に
五百原君書紀續記にも廬原公といふ姓多く
見えあり姓氏錄左京皇別廬原公笠朝臣
同祖稚武彦命之後也孫吉備武彦命景
行天皇御代被遣東方代毛人及山鬼神
到倍廬原國復命之曰以廬原國給之と
いふ事あり其所を以國とす事ありとありと
万葉二卷廬原の清見と云ふとありと和名抄

の^い名^なも^も知^しる^るは^は廬^い東^{とう}と^と所^し今^けを^を四^し村^{むら}也^{なり}
あり^{あり}其^{その}中^{なか}に^に東^{とう}村^{むら}とい^いふ^ふ名^なあり^{あり}風^{ふう}土^ど記^きに^に廬^い原^{げん}
或^{ある}伊^い穂^ほ原^{げん}と^と云^いふ^ふ豊^{とよ}積^{しほ}神^{かみ}社^{やしろ}或^{ある}止^{とど}由^{よし}
府^ふ在^あ大^{だい}領^{りやう}云^いふ^ふ日本^{にっぽん}武^ぶ尊^{そん}祭^{まつり}之^の地^ち
也^{なり}や^や中^{なか}に^にえ^えあり^{あり}是^{こゝ}を^を考^{かんが}へ^へ廬^い東^{とう}とい^いふ^ふ
の^の假^{かり}廬^い作^さり^り給^{たま}ひ^ひし^しより^{より}名^なを^を肩^{かた}に^にお^おり^り給^{たま}ふ^ふ
故^{ゆゑ}に^にあ^あり^りと^と宿^{しゆく}の^の給^{たま}ふ^ふ思^{おも}ひ^ひも^も可^たし^し可^たし^しと^とい^いふ^ふ
の^の神^{かみ}代^{しろ}あり^{あり}給^{たま}ふ^ふ社^{やしろ}あり^{あり}其^{その}古^{ふる}事^{こと}風^{ふう}土^ど記^きに^に見^みえ^え
あり^{あり}今^けの^の地^ち理^りを^をも^もて^て風^{ふう}土^ど記^きの^の地^ち名^なを^を合^あを^を考^{かんが}へ^へ
焼^や津^つを^を前^{まへ}に^に引^ひ如^{ごと}く^くい^いふ^ふと^と宿^{しゆく}の^の給^{たま}ひ^ひし^しより^{より}い^いふ^ふ

類^{るい}に^に給^{たま}ふ^ふ今^けも^も焼^や津^つ神^{かみ}社^{やしろ}あり^{あり}され^{され}ば^ばは^は社^{やしろ}を^を
い^いふ^ふの^の事^{こと}に^に給^{たま}ふ^ふ古^{ふる}事^{こと}に^に見^みえ^えす^す安^{やす}倍^{ばい}郡^{ぐん}の^の内^{うち}神^{かみ}部^ぶ日^{にち}
本^{もと}武^ぶ尊^{そん}驛^{えき}之^の護^ご神^{かみ}劔^{けん}故^{ゆゑ}に^に有^あり^り神^{かみ}部^ぶ号^{ごう}神^{かみ}部^ぶ神^{かみ}社^{やしろ}
則^{すなは}ち^ち日^{にち}本^{もと}武^ぶ尊^{そん}所^{ところ}祭^{まつり}大^{だい}神^{かみ}宮^{みや}也^{なり}と^とあ^ある^るは^は神^{かみ}部^ぶ
今^け地^ち名^なに^にあ^ある^るを^をい^いふ^ふ今^けの^の神^{かみ}部^ぶ神^{かみ}社^{やしろ}賦^ふ職^{しやく}に^に
の^の中^{なか}に^に坐^ます^すと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ其^{その}古^{ふる}事^{こと}に^に見^みえ^えす^すの^の様^{よう}式^{しやく}
を^をい^いふ^ふは^は焼^や津^つより^{より}今^けの^の名^な四^し里^りを^をい^いふ^ふあり^{あり}と^とい^いふ^ふ
と^とい^いふ^ふは^は宿^{しゆく}の^の宿^{しゆく}に^にあ^ある^ると^とい^いふ^ふ東^{とう}に^に給^{たま}ふ^ふ今^けの^の地^ち名^な
と^とい^いふ^ふは^は宿^{しゆく}と^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふ廬^い原^{げん}と^とい^いふ^ふ

池をぬぐん法如のち池を谷といふ処は皇の池
と云ふもあり海風を記しつ葛岡の下より皇の池
日本武尊討蝦夷之時暫時此に浴此池と云
ふ事ありけしほもいふ事ありと云
ふ事ありけしほもいふ事ありと云
と神部より今の彦原すゝ今の道四里より
一百より此所の宿りぬるへ一といふ神部の大神堂を
おもむるや豊積の社の與由氣大神をよみよみ
も同一度の事ある故あり一宿りぬる古蹟

あるよりてど神供あり一推武彦此國を賜
り一玉也

池をぬぐん法如のち池を谷といふ処は皇の池
と云ふもあり海風を記しつ葛岡の下より皇の池
日本武尊討蝦夷之時暫時此に浴此池と云
ふ事ありけしほもいふ事ありと云
ふ事ありけしほもいふ事ありと云
と神部より今の彦原すゝ今の道四里より
一百より此所の宿りぬるへ一といふ神部の大神堂を
おもむるや豊積の社の與由氣大神をよみよみ
も同一度の事ある故あり一宿りぬる古蹟

富士郡

書紀不盡川と書万葉不二と書次和名所
以下富士と作本朝文輝都良香富士と作
古考傳云山名富士取郡名山有神名淺間大
神と作ふまのたひと作ふより郡の名と作
る也富士といふ語意ハ秀靈異の約と作る秀
て〜いふ事と作ふ約書紀高千穂穂日二上峯
又古事記高千穂之久士布流多氣といふいふ
高〜〜いふ事と作ふ事と作ふ名に作る

事今いふと同又其山のほとりを知鋪郷
名と作ふといふ郡名と作るも同いふ事と作
ふる高千穂と作る天来と作るのたると同く千
巻穂と作婦人の名と作る事千と作千と速比賣千
と作倭姫都美余もその千の約たるを
英和と作附ある事知る所一統と作いふ事と作
千穂と作附ある事知るの令く同く事知る
とも千穂ハ皇孫命の天孫りある事知る
かく高千穂と作英和と作るもそのいふ事と作

嘉入るるけし郡のなまゝのりあまのり郡
なまゝのりあまのり



國造考

國造とはまゝあり而朝廷は奉るべきの補あり
一國を知らるる一郡を知らるる一村を知らるるは其程
くそ今考がしそ名も君別稱置村をあらわす
ふけの補あり是れはまゝ造といひて中より朝廷
よきは奉るべきの造といひ國造といひての造といふ
そ考の委ねたる古事記傳の説の如く叔駿河の武
造の事も旧記より見えぬも其をあらわす
こゝにいふは如何なる事たるかといふた書も

えあるよとて是城考る國造といふもの歟河
先四事記は志賀高穴穗朝世以物部連祖
大新川命兒行堅石命定賜國造とある是
かりけ外は風土記は國造伊豫部直又岡野井真
人又勝百直といふ人見え續紀四十延暦十年四月
駿河國駿河郡大領正位下金刺舍人廣名爲國
造と見えありこま谷の別氏とてかの志賀高穴
穗の宮は任せしとある國造の後と見えけとむ
神代よりけ國造知りし人といふ家氏や日本武尊

歟と横亡とありし國造は性も名も傳は
た記さかゝかり國造とてありけ後物部氏
の遠祖を任せしとありけ人國造の
事を思ふ言ひ武尊の神代とてありけ人
一唐系の君の祖吉備武彦の命も同じとありけ
とて記さる物部氏の祖の神代ありし事書紀も
古事記もいふた日本武尊の母は橘姫は穂
積氏也山宿禰の女といふ穂積氏は物部氏も同
祖の系をいふ外戚はけりといふと神代

受下り給ひし物部氏の位も多しと云ふ事
は其の^{和名}物部といふ名もあり又其後郡雲
城神社富士郡波布羅子神社駿河郡子松園神
社益頭郡朝夷田神社、とも、饒速日命を祭る
風土記に見えき、物部氏の祖神と云ふ事
類聚に於て河まきといふ氏人といふ位といふ世
いふ事をも考へて、又風土記をみれば伊豫部直
来于此河本橋海潮之害難用之當時所築之島田
之堤志津楳之要障今猶存之といふ事、

時之事を考へて、事記にもいふ事、又
いふ氏、姓氏録伊與部高媚年須比命三世孫
天孫代主命之後也といふ事、又、伊以外
の氏考へても、國造、名代書、姓をいふ事、伊
も、凡そ、伊伊豫部を名に直に、伊、外
にも、見えて、考へて、又、國野井陵國造國姓
井真人葬於茲とある是、國造も別氏も、
真人の戸名、天武の漢代、初に賜ひ、戸名、其
漢代より後の事、平屋、佐國野井、名、真人

戸ありと云氏を祖か。一仍て考る天武詔書
十月守山以下十二氏賜姓曰真人とある中なる
橋氏ありし氏此國よりあると云橋氏あり
る。一やと故に高橋は安倍臣同祖と景行記
に東國は行幸のたひは氏を賜ひし由安倍の郡考
中より如くし地名風土記に廬原郡の中なる橋
と後の世までも名もあらず中なると云橋氏の
國に居りし事見たり又高橋氏のいふの守は任
て下りし事もなり。國史にんえあり真人の居る

氏いふとある。あるは只い氏のなり。蓋津郡三輪の下
勝間陵國造勝間直死之故葬之とあるを
直のなり是も氏を祖か。一あひて考る三輪の條は
陵のありし見を神氏にありと云や姓氏錄神直神
魂命五世孫生玉見日子命之後也とあるなり橋
風土記の陵に名をたふ。一事いふ世陵の下は
紀直い世死に役葬之とあるを國姓井勝方
も姓いふとある。一事いふ神直とある。一事いふ上の條
の上の考とある。一事いふ神直とある。一事いふ上の條



事程より考へて其跡いかにあるべき地を要
 求するに續地ある金刺舎人等外より考へ
 江家次第四除目より江家國縁正位上金刺宿禰
 為頼といふ名見え平家物語より平家友の郎等塚
 大西金刺光盛といふ名見え家い氏人といふ
 名見え程考ぬ

文化九年十月五日

大西金刺光盛といふ名見え家い氏人といふ
 名見え程考ぬ

